平成19年度

# 七尾市文化産業賞に

## 船山氏、長峰氏、田中氏

七尾市文化産業賞は、本市の文化産業の振興発展に関し特に功績が顕著な方に贈られる本市最高の賞です。

### 船山力次（ふなやま りきじ）氏

（昭和３年１月生まれ 79歳　舟尾町）

**七尾豊年太鼓（七尾市無形民俗文化財）を通じて、伝統芸能の継承・発展に尽力**

氏は、昭和25年に結成された七尾豊年太鼓保存会の前身である能友会の時代から、七尾豊年太鼓の技の保存に努めるとともに、各地の大会や記念イベントに参加されました。

これまで、全国各地や海外で記念イベントやテレビ、映画出演など約４０００回にわたり「七尾豊年太鼓」として演奏活動を行い、郷土を代表する伝統芸能を広めてこられました。

昭和47年から始まった丸亀市との太鼓による交流は、昭和49年11月には「太鼓が取り持つ縁」で本市と丸亀市の親善都市提携につながり、行政はもちろんのこと市民、各種団体が交流するまでに発展しています。さらにロシア連邦ブラーツク市などにも出演するなど国内外の姉妹都市の交流にも大きく貢献されています。

相談役となった現在でも、市内の太鼓団体の育成・指導を行い、太鼓芸能の伝承に努めておられます。

### お聞きしました

**七尾豊年太鼓は郷土の誇り**

初めて七尾の豊年太鼓を見たとき、その素晴らしさに感動したことを覚えています。その後、50年近く郷土の誇りである太鼓を打つことができて悔いはないし、続けてきてよかったと思っています。

**太鼓は言葉がいらないところが魅力**

国内外、いろいろなところで太鼓を打ってきました。海外では参加した日本の芸能の中で一番人気があり、アンコールが止まなかったことが印象に残っています。太鼓の魅力は、太鼓ひとつで郷土の芸能をどこでも伝えられるところだと思います。

**地域に愛される太鼓であってほしい**

伝統ある七尾の豊年太鼓を守り、時代に流されず、いつまでも地域に愛される太鼓であってほしいと願っています。

## 長峰和人（ながみね かずひと）氏

（昭和４年12月生まれ　77歳　池崎町）

**社会教育活動の発展および郷土の歴史文化の発掘・保存、市民への啓蒙普及に尽力**

氏は、昭和25年から昭和51年まで教員として、昭和58年からは、３期12年わたり七尾市議会議員として、地域の教育力の向上・発展に尽力されました。

社会教育、生涯学習の発展にも力を注ぎ、昭和48年から高階公民館の要職を歴任されたほか、昭和60年からは七尾市社会教育委員、平成８年からは高階公民館長として地区公民館はもとより、市の公民館活動の発展に全力を傾注されました。

また、昭和50年から24年間七尾市地方史研究会の副会長を務め、地域史の研究を進め、市民に伝えたいとの強い思いから古文書の会を組織し、その指導に当っておられます。

天保年間の貴重な資料の発見、明治初期の医学書や各地の神社奉納額の研究・解読などを行い、その成果を執筆して発表するなど地域文化の発掘・発展に尽くしておられます。

### お聞きしました

**好きだから続けてこられた**

学生の頃から、郷土史家の小田吉之丈氏の影響を受け、歴史に触れる機会がありました。地道な活動を続けてこられたのは、好きだったからの一言に尽きます。これまでに発見した資料や文化財などは大変貴重なものもあるので、これらを保存し、地域に残していきたいと思っています。

**「古文書の会」の講師として**

平成８年から高階地区で、平成12年からは徳田地区で毎月各１回続けています。地域に合った話題で受講者が毎回楽しみにしてくれていることが励みとなっています。

**たくさんの友だちは、宝**

これらの活動を通じていろいろな人々と出会い、勉強もさせてもらいました。出会ったたくさんの友だちは、何ものにも代えられない宝です。

## 田中選秀（たなか せんしゅう）氏

（昭和11年２月生まれ 71歳　石崎町）

**県下社会教育活動の充実・発展および石崎奉燈祭を通じて観光振興に尽力**

氏は、石崎公民館副館長を経て、平成２年から同館長に就任され、公民館運営の理念を「生きがいと活力溢れる地域社会の実現」として17年間にわたり地域に密着した事業を積極的に推進されました。

公民館運営を円滑に進めるため、リーダーの発掘と育成に努めるとともに、学習グループなどの育成に取組み、特に青少年の健全育成に力を注がれました。この間氏は、平成７年から石川県公民館連合会会長、平成10年から七尾市公民館連合会（七尾市公民館連絡協議会）会長などの要職を歴任され、県下全域の社会教育の振興、発展にも尽くされました。

一方、昭和55年から石崎奉燈祭奉賛会実行委員長に、平成９年には同会会長に就任され、能登のキリコ祭りを代表する勇壮華麗な石崎奉燈祭の魅力を全国に発信して、観光振興に多大な貢献をされました。

### お聞きしました

**地域の方々との交流をモットーに**

20代の時に青年団長を勤めて以来、「お世話になった地域の方に恩返しがしたい。」という気持ちがありました。青年団や壮年団など、多くの人たちと交流し、地域の活性化を目指して活動してきました。

**地域あっての公民館**

公民館は、町のサロンでなければならないと思っています。地域の方々とともに汗し、祭りや文化などの活動を支え、人と人とをつなげる役割があると思います。

**石崎奉燈祭奉賛会の会長として**

多くの観光客が訪れるようになってからは、奉燈の運行にルールが必要になってきました。さらに、担ぎ手である地元の若い人たちが少なくなってきて、祭りを維持するのは大変です。奉賛会としては、側面から支えることが大切だと考えています。